

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を認識し、ミーティングでは、職員全員で確認して、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	月1回職員全員で地域密着型サービスの意義を確認し、疑問が生まれれば話し合い、日々業務の中で理念を生かしたケアに努めている。状況に応じて家族にも説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民として町内会に加入し、学校の祭り、ゴミステーションの清掃、資源ごみ提出にも参加している。	町内会に加入し、地域の祭りに参加している。近隣の幼稚園との交流もあり、大正琴やフラダンスなどのボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を利用し、介護についての意見交換をしており、新しい情報も得られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所方の報告、参加者からの質問や要望を受けたり、報告して現在取り組んでいる点を伝えている。	町内会長、地域包括支援センター職員、民生委員などの参加者から率直な意見をひきだし、サービスの向上、改善に向けた具体的な取り組みにつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新の機会等で、市町村からの担当者の方へ利用者の暮らしぶり、ニーズの具体的な点を伝えている。	入居者の事務的手続きのため、市の職員に面談する際に、事業所の現況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で、職員の意識を高め、日常生活の中での行動、言動についても反省したり、利用者の気持ちをよく理解しているか相談し合うよう努めている。	ミーティング時に身体拘束をしないことを周知徹底し、新しい資料を取り寄せ勉強会を開いている。また、転倒などの危険を防止するための過剰な介護が本人の自立を妨げていないかも含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で、利用者の安全面について見守り方法を徹底してできるよう努め、法改正の出入り口の鍵のない状態に改善した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会ある毎に、職員へ説明し、対応が必要と思われる場合には、随時、職員に説明し、アドバイスをしながら、利用者の支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明している。特に利用料金、起こり得るリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制について詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には手紙や電話したり、訪問時に情報を伝え、何でも意見してもらえる雰囲気作りを心がけている。毎月の全体ミーティングで結果を伝え、意見を反映させている。	家族に気軽に相談してもらえるよう雰囲気作りを心がけ、面会できない家族には電話や手紙で入居者の日々の出来事を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会で情報交換し、日頃から、コミュニケーションを図ることに努め、問いかけたり、聞き出している。	職員は気づいたことを随時話し合い、課題を共有している。管理者は職員の意見を必ず聞くようにしてコミュニケーションを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスの要因を探り、休憩時間が取れる環境作りをしたり、スタッフ同士の人間関係を把握し、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の外部研修情報を収集し、職員の段階に応じて、なるべく多くの職員受講の計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの見学や相互研修を通し、質の向上に努めた計画をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談において、本人の求めている事、生活状態を把握するよう努め、本人に受け入れられる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の求めている事と不安に対し、事業所としてどのように対応が出来るのか、事前に話し合っ、不安を取り除くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思い、状況を把握し、早急な対応が必要な場合、なるべく柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所へサービスをつなげる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなど知ること努め、暮らしの中で分かち合い、共に支え合える関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常生活を報告し、相談し、手紙、電話で関係が途切れないようにし、家族と同じ思いで支援し、そのことを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用されている美容室、歯科、行事等に参加して頂いている。買い物、外食と馴染みにも出かけている。	馴染みの知人や友人が面会に来てくれる。家族の意見を聞き、外出や外泊を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人的に話を聴いたり、気の合う同士で座っていただき、一緒に物事が出来るよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した方にも、行事に招待したり、遊びに来て頂くよう継続のお付き合いが出来るよう声かけしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中、声かけして言葉や表情から真意を推し測ったり、御家族からの情報も得よう努めている。	入居者一人ひとりに関心を持ち、日々のかかわりの中で、言葉や表情から本人の意思を察し、理解できるよう耳を傾け、不安を取り除けるような言葉かけができるよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の段階で、今までの暮らしぶりをよく聴いて、その人の特性をつかむよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムを理解すると共に、心理、生活面の視点や出来る事と出来ないことに注目し、その人の全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聞き、職員全員で意見交換し、現状に即した介護計画を作成している。	医師や家族の意見を聞き、カンファレンスを行い、その結果を介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイル作成で、食事摂取、排泄、保清をチェック、日々の暮らしの中で言葉、行動、エピソードの記録を取り、職員間で共有し、見返している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院、外泊、外出等、医師の指示の範囲内で柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加して頂き、周辺の情報交換や協力関係が築けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医には、基本的に家族が同伴し、受診となっている。不可能な場合は職員で対応している。	グループの医療機関の医師が毎週往診している。また、看護師にも随時訪問してもらっている。本人やご家族が希望するかかりつけ医で受診することもできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置で、日頃の健康管理、医療面での相談が行えるよう連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、週に1度は見舞うようにして、様子を家族にも伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認をして、対応できる最大のケアについて説明し、医師、職員、家族が連携した本人が安心して最期を迎えられるようにしている。	入居時に本人や家族に事業所の方針を説明し、その意向を聞き、医師とも連携して、安心して終末期を過ごせるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が勉強会で習得できるよう努めている。マニュアル作成して、緊急時対応を周知徹底出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、年2回消防避難訓練を行っている。地域の協力的体制は自治会にお願いしている。	年2回避難訓練をしている。今年は2階の入居者のために避難用滑り台の設置を予定している。	地域を狭い範囲に限定せず、消防署とも連携して、住民や企業、同業他社などに事業所の災害対策に関する理解を求め、協力体制を築いていくことが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時、まず、本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけ、自己決定しやすい言葉かけするよう努めている。	年1回外部研修に職員が参加して資質の向上を図っている。日常の業務を振り返り、理念の具現化を試行し続けている。入居者本人の気持ちを大切にして、さりげない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけし、意思表示困難な方には表情をよく読み取り、本人の決定の場面を作っている。(やりたいこと、食べたい物等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れの中、一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個別支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援している。馴染みの美容院、毛染め、カットのデザインを組み入れ、その人らしさを大切にしている。一緒に買い物に行き、服を選んだりする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時に外食、希望を聴いたり、一人ひとりの好みを取り入れたり、食事の準備、片付けも一緒に出来る人にはそのようにしている。	野菜の皮むきなど出来る入居者には下ごしらえを手伝ってもらい、季節感の味わえる、栄養の豊富な料理を手作りで作っている。食物繊維を多く含む食材を用いて便通を良くする等工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの体調と一日の摂取量と把握して、主治医のカロリー、補助食品の指示に従って、嗜好品も取り入れ、食べやすく提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアしていただき、十分できない方は後で丁寧にケアし、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない人には時間的に誘導して、トイレにて排泄を促している。依存的な方にも声かけとなるべく自分で処理できるよう援助している。	排泄チェック表を活用し、入居者のパターンを把握している。トイレへ誘導し、できるだけトイレでの排泄を促している。夜間はオシメを使用している方も、昼間は紙パンツまたは布パンツを着用してもらい、自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、排便を促す食材を取り入れる工夫をしている。食品では排泄困難の人には主治医指示にて下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む人には声かけや順番を遅くし、本人の気分をほぐす会話をして楽しい気分になり、入浴できる工夫をしている。	週2回午前中に入浴してもらうのを基本としている。夜間の入浴を希望する人には清拭等で対応している。更衣室にはエアコンが設置され、冬期は暖房が入り、更衣がしやすいようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるようにしている。個々の体調に合わせて、ゆっくり休息し、元気に目覚めを迎えられるよう、眠剤も使用したりして安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明を各人のファイルに保管して、全職員が分かるよう徹底している。変更の申し送りも徹底、様子観察もきちんと記録するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力が発揮でき、満足が得られるよう工夫し、頼んだ仕事ができれば感謝も忘れないようにしている。嗜好品、気分転換、外出、外食、ドライブも取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段出かけられない所へも相談しほとんどの人が一緒に出掛けられるよう積極的に行っている。外食ではくるくる寿司、ピザの店、洋食の店など利用している。	本人の希望により外出し、歩行が可能な人は、職員と一緒に食材など買い物に行っている。敷地内の果物や野菜の収穫時には日光浴を兼ね、皆で楽しんでいる。回転寿司やピザなど外食にもよく出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方との話し合いで、少しのお金を財布に入れて頂き、店に行き、好きな物を買って支払いをして楽しみを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	よく訪問できない方には、手紙、電話で近況を伝えている。手紙は月1回、本人にも電話で家族と話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、家庭にある飾り棚やクッション、人形など配置して、暖かい家庭的な雰囲気を出せる様工夫している。	玄関には季節の花が飾られ、金魚が飼われている。リビングにはアンティークな飾り棚が設置され、落ち着いた雰囲気である。清潔で家庭的な居心地のよい場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室の中、馴染みのタンス、写真など置いたり、廊下に椅子を置いてゆっくりと話が出来る様にも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、見覚えのあるものを家族と相談して配置し、安心して過ごせるよう工夫している。	入居者が使い慣れたタンス等を持って来て頂き、配置されている。車いすでの移動がしやすいよう、スペースも確保され、安心して過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体状態に合わせた工夫として安全第一と使いやすいようタンスやベッドの配置、自分で整理しやすい衣類の枚数を用意したりしている。		